



学校だより

12月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



「想い」を伝える

校長 西山 久美子

11月27日の朝会は、音楽朝会でした。大勢で歌うことへの制限があった3年間を経て、ようやく今年度は全校児童が一堂に会し歌うことができるようになりました。上星川小では、毎月の歌を決め、音楽の授業や朝の会などで歌っています。仲間との一体感を味わえるのも、声を合わせて歌うことのよさでしょう。月初めには、歌詞を見ながら歌を知る段階ですが、日がたつにつれ歌詞の意味も考え、心を合わせて歌っている姿が見られるようになってきます。朝、教室をのぞいた時、口を大きく開けて一生懸命歌っている子ども達を見ると、今日もいいスタートになる！と確信します。

歌は、歌詞に込められた思いをリズムやメロディーに乗せて「伝える」ことができますが、他にも学校では、考えや気持ちを「伝える」場面がたくさんあります。授業中には、学習課題の解決方法を隣の友達やグループと確かめ合ったり、学級全体の前で考えを発表したりしています。それは、言葉で伝えることもありますし、書いたものを読み合っていることもあります。しかし、伝え合うことは授業の中ばかりではありません。嬉しいこと感動したことを共有したい、一緒に遊ぼうなど、1日に何度も誰かに伝えたい思いが生まれています。もちろん、悲しい気持ちや悔しい気持ち、もやもやとした思いを伝えたいことも出てきます。子ども達には、そんなとき、相手にどうやったらその気持ちを伝えることができるか考える力をつけてほしいと思っています。

ところで、「伝える」ためには、安心して自分を表すことができる環境も大切です。クラスを回っていると、発言する友達の方に体を向けて、うなずきながら聞いている様子を目にします。発表形式の学習では、発表後に温かい感想を述べている場面にも出会います。このような、安心して自分の「思い」を表現することができるという場があることが、大きな声で歌ったり、相手に自分の考えや思いを伝えたりする力を育てているのだと感じます。

一方で、伝えられた側は、相手はどんなことを伝えたいのかな、今どんな気持ちでいるのだろうかと考え、相手の思いを「想う」気持ちで受け止めること、そして、言葉だけではなく、表情や相手の状況から「想い」を「想像する」ことが必要なのだと思います。そうした「想う」「想像する」ことを日頃から大切にして、思いやる気持ちを大きく育てていきたいと思っています。

12月4日から上星川小では、人権週間としています。1階には「想」と表記されたのぼりを掲示します。一人ひとりの想いを大切にするを改めて考える週間としたいと思います。

また、12月9日(土)の授業参観では、歌の発表を計画しました。今月の歌「スマイルアゲイン」の優しい歌が聴いている人に伝わり、みんながスマイル(笑顔)になるように願っています。

